

科目：日本史

●問題冊子 12 ページ：大問 V 問5

選択肢に正解として扱うことができるものが複数ありましたので、そのいずれを選択した場合も得点を与えることといたします。

●問題冊子 12 ページ：大問 V 問6

選択肢に正解として扱うことができるものが複数ありましたので、そのいずれを選択した場合も得点を与えることといたします。

以上

日 本 史  
(問 題)  
2026年度

〈2026 R 08200015 (日本史)〉

注 意 事 項

1. 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
2. 問題は2～13ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. マーク解答用紙記入上の注意
  - (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。
  - (2) マーク欄にははっきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと。

マークする時	● 良い	○ 悪い	○ 悪い
マークを消す時	○ 良い	○ 悪い	○ 悪い

5. 記述解答用紙記入上の注意
  - (1) 記述解答用紙の所定欄（2カ所）に、氏名および受験番号を正確に丁寧に記入すること。
  - (2) 所定欄以外に受験番号・氏名を記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
  - (3) 受験番号の記入にあたっては、次の数字見本にしたがい、読みやすいように、正確に丁寧に記入すること。

数字見本	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

6. 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
7. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離さないこと。
8. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
9. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

I 次の文章を読み、下記の問1～9に答えよ。問1・2については、それぞれの解答を記述解答用紙に記入せよ。問3～9については、それぞれの解答を選び、マーク解答用紙の記号をマークせよ。

古代の名門氏族である大伴氏の氏族名は、伴造のなかで大きな勢力であったことからきており、軍事に関わる部民を率いた久米氏や鞍負部氏あがひべを統轄したといわれている。『古事記』・『日本書紀』の神話（記紀神話）においても、天孫降臨や神武東征の際に、大伴氏の先祖が久米氏の先祖を率いて天孫や東征軍を先導したことがみえる。このように軍事面での役割が強調されているものの、王権から連の姓を与えられた大伴氏は軍事だけを担当していたわけではなく、6世紀初めには大連大伴金村が政権を主導した。しかし、金村は外交政策の失敗を糾弾されて失脚し、政治の主導権は蘇我氏と物部氏に移った。

7世紀になると、大王家が徐々に権力を集中させて豪族の中で抜きん出た存在になっていく。大伴氏は、壬申の乱において一族の者が大海人皇子の側について活躍したため、新たな政権を構成する重要な豪族となった。そして壬申の乱の戦闘における貢献が評価されたことで軍事と結びつけて位置づけられるようになり、記紀の編纂過程で神話の体系が整理された際に、大伴氏の祖先伝承も軍事面での役割が強調されるようになった。藤原宮や平城宮、平安宮の正門は一般に **A** 門と呼ばれるが、大伴門とも称されていたことがあり、これは大伴氏が宮都の守衛において中心的な役割を果たしていたことを象徴している。

律令の編纂が進み、朝廷の仕組みが整えられるようになると、前代からの有力氏族の氏上が議政官として政治に参加するようになった。大伴氏も、多治比・布施（阿倍）・石上（物部）・藤原（中臣）・紀の各氏族と並んで議政官を出したが、藤原氏が台頭していく時期にあって、大伴氏の立場は安定したものとはならなかった。

議政官も務めた大伴旅人の嫡子である家持は、『万葉集』に最も多くの歌を残し、「万葉歌人」として知られる。しかし家持は、越中・因幡・薩摩・相模・上総・伊勢・陸奥の国司と大宰少弐を務めた律令官人であり、一部の国では **B** 国司であったものの、何度も地方赴任と中央での勤務を繰り返しながらキャリアを重ね、最後は陸奥国で没したともいわれる。武門で知られる氏族の「伝統」を背負った苦勞人であり、奈良時代の数々の政変に翻弄された。762年には、藤原仲麻呂に反発した藤原宿奈麻呂が佐伯今毛人・ **C** と家持をさそって仲麻呂暗殺をはかり、発覚した。この事件では宿奈麻呂のみが厳罰となったものの、家持も薩摩守とされて都を離れることとなった。また785年の藤原種継暗殺事件では家持の関与が疑われ、本人はすでに死去していたにもかかわらず官人資格が剥奪された。さらに大伴氏の多くの者が連坐したことから、一族は大きな打撃を受けた。

そして平安時代になると、藤原北家に権力が集中するようになるなか、他の多くの名門氏族と同様に大伴氏も衰退し、上級貴族を輩出することができなくなっていったのである。

問1 空欄 **A** にあてはまる語を、漢字で記せ。

問2 空欄 **B** には国司が現地に赴かないことを表す語が入る。 **B** にあてはまる語を漢字で記せ。

問3 下線部 a に関連して、大伴金村の失脚のきっかけになった朝鮮半島情勢について述べた文として、正しいものはどれか。一つ選べ。

- ア 馬韓地域を百済の王権が統一した。
- イ 高句麗が百済と新羅を服属させて、倭国と交戦した。
- ウ 百済が加耶地域の西部に対する支配権を確立した。
- エ 新羅が唐と結んで百済を滅ぼした。
- オ 新羅が新たに建国された渤海と対立した。

問4 下線部 b について述べた文として、誤っているものはどれか。一つ選べ。

- ア 蘇我氏は政権のなかで財政を担当した。
- イ 蘇我氏は渡来人との関係を深めた。
- ウ 物部氏や中臣氏は仏教の受容に否定的であった。
- エ 物部氏は俘囚となった蝦夷との関係を深めた。
- オ 大臣蘇我馬子は、大連物部守屋を滅ぼした。

問5 下線部 c に関連して、大王が権力を集中させる過程で定められたことに関する次の史料 X・Y・Z を古い方から正しく配列したものはどれか。一つ選べ。

X 詔して曰く、また諸氏の族姓を改めて、八色の姓を作りて、天下の万姓を混す。

Y 其の三に曰く、初めて戸籍・計帳・班田収授の法を造れ。

Z 詔を承りては必ず謹め。君をば即ち天とし、臣をば則ち地とす。

- ア X→Y→Z                      イ X→Z→Y                      ウ Y→X→Z                      エ Y→Z→X
- オ Z→X→Y                      カ Z→Y→X

問6 下線部 d に関連して、記紀神話について述べた文として、正しいものはどれか。一つ選べ。

- ア それぞれの氏族の祖先と天皇家の祖先との奈良時代末の段階での関係性が、反映されている。
- イ 天皇家の先祖は神ではなく人間であることを強調することで、神官として天皇家を位置づけている。
- ウ 神を先祖とする天皇家以外の豪族を描くことで、皇統の危機に際して他の豪族が引き継げる可能性を示している。
- エ 大伴氏の天武朝での役割の起源が、神話の世界にあるものとして描かれている。
- オ 紀伝体で書かれた『日本書紀』は、編年体で書かれた『古事記』の神話を要約したものである。

問7 下線部 e に関連して、『万葉集』に所載されていないものはどれか。一つ選べ。

- ア 熟田津に 船乗りせむと 月待てば 潮もかなひぬ 今は漕ぎいでな
- イ 竈には 火気ふき立てず 甑には 蜘蛛の巣懸きて 飯炊く 事も忘れて
- ウ 大君は 神にし座せば 天雲の 雷の上に 廬らせるかも
- エ 銀も 金も 玉も 何せむに 勝れる宝 子にしかめやも
- オ 唐衣 着つつなれにし つましあれば はるばる来ぬる 旅をしぞ思ふ

問8 空欄 **C** の人物は、芸亭を設置したことで知られる。 **C** にあてはまる人物はどれか。一つ選べ。

- ア 石上宅嗣                      イ 紀貫之                      ウ 在原業平                      エ 柿本人麻呂                      オ 山上憶良

問9 下線部 f に関して述べた文として、誤っているものはどれか。一つ選べ。

- ア 安和の変で、醍醐天皇の子である源高明が左遷された。
- イ 宇多天皇の信任を受けていた菅原道真が、大宰府に左遷された。
- ウ 伴善男は、応天門への放火の罪を源信に負わせようとして発覚し、罰せられた。
- エ 延喜・天曆の治では、摂関が置かれずに天皇による親政が行われた。
- オ 摂関家の邸宅である東三条殿で、陣定が行われるようになった。

Ⅱ 次の【史料1】は、四条天皇のもと摂政に就任した藤原道家（1193～1252）が「徳政の要」として四条天皇にその施政の方針を示した奏状，【史料2】は徳政を求める土民の要求に押されて室町幕府が徳政令を發布したことを受けて記された、<sup>までのこうじときふさ</sup>万里小路時房（1394～1457）の日記の一節である。これを読んで、問1～6に答えよ。問1～5については、それぞれの解答を選び、マーク解答用紙の記号をマークせよ。問6については、記述解答用紙に記入せよ。

【史料1】

一、任官叙位の事

（中略）唐の太宗の一言の如くんば、為政の要、ただ人を得るに在り。その才を用うるにあらざれば、必ず理を致しがたし。それ然ればすなわち、一官の闕（注1）、二人競望（注2）せば、まず才行を撰ぶべし。才行ともに顕れば、奉公に依るべし。（中略）この二事もし一同ならば、重代（注3）・非重代、分別せらるべし。但し重代の非器（注4）と非重代の善才（注5）、つらつらその採用を思うに、なお名誉譜第（注6）の事に依るべし。ともに才望なくんば、aの相伝に付くべきか。君（注7）の家を棄てざるは、父祖の記録を重んじ、<sup>b</sup>家門の典籍を賞するの故なり。（中略）

一、訴訟決断の事

（中略）理非決断は政化（注8）の肝心なり。ことに沙汰ありて道理を求むべし。大事はcに下し、勸決（注9）せらるべし。小事は御所中において評議あるべし。当時、<sup>ひろごしよ</sup>広御所（注10）を聴さるるの人のうち、もとより顧問に預かるの輩これあるか。その人を相計らい定め置かるべきか。毎月三度、その日を定むべし。臨時の一決、また事の凡厥（注11）に依るべし。衆議一同、得理必然の後、権勢に妨げられ、遅滞せしむるなかれ。<sup>たと</sup>縦い少々の<sup>ほうなん</sup>謗難（注12）あれども、人々議定せば、上はその愆<sup>あやまり</sup>なく、下はその疑を避くるか。（中略）

右、徳政の要、大概かくの如し。天道の譴告、宗社の怪異、ともにもって相重なる。ことに慎まるべし。

（注1）闕：欠員。 （注2）競望：同時に希望する。 （注3）重代：先祖代々。

（注4）非器：力量がないこと。 （注5）善才：優れた才能。

（注6）譜第：譜代。 （注7）君：主君、天皇。

（注8）政化：政治によって民を導くこと。 （注9）勸決：よく調べて決断する。

（注10）広御所：御所内の広間。 （注11）凡厥：差し迫ったこととそうではないこと

（注12）謗難：そしり非難すること

【史料2】

そもそも徳政の号は、皇化（注1）を施さる古来の通称なり。意見を諸人に召されて<sup>せつさ</sup>切磋せしめ、そのうちに新制を定めらる事なり。今、武家徳政の沙汰は、こと土民の雅意（注2）より起こり、ただ無理に質物を破り借書を破るとてへり。その儀ばかりを以て徳政と号するは、さらに徳政の実に背き、比興（注3）の事なり。もしこの儀たるべくんば、利々倍々の沙汰においては、悉く券契を破り、質物といえども<sup>りびよう</sup>利平（注4）の如くこれを沙汰致すの者、これを破らるにおいては、仁政に協うべきか。いまだ本物の分を報い取らず、ただ破らるるの条、不便の事なり。いったん窮民を救うに似るか。<sup>よろこ</sup>悦ぶ者多く、<sup>うれ</sup>憂う人少なしと云々。土民これを張行（注5）すといえども、後の罪科を相恐れ、尊卑を論ぜず免ぜらるべきの由、これを申す。管領これを成敗（注6）す。嗷訴の上は、土民ばかり免ずべきの由、これを仰す。なお叙用（注7）せず皆同たるの由、嗷儀に及び、裁許なくば靈仏靈社焼き払うべきの由、結構の間、無力下知に及ぶものなり。但し<sup>f</sup>土蔵、一年中の課役巨多なり。年紀を定めてしばらく免許あるべきの由、成敗すと云々。

（注1）皇化：天子の徳により人を導くこと。 （注2）雅意：わがまま。

（注3）比興：不合理なこと。 （注4）利平：利子 （注5）張行：強引に行う。

（注6）成敗：取りはからう、審理する。 （注7）叙用：受け入れる。

問1 空欄aに入る語句として適当なものはどれか。一つ選べ。

ア 所領                      イ 武具                      ウ 旗                      エ 文書                      オ 銭

問2 【史料1】の記主にとって、下線部bに含まれる書籍はどれか。一つ選べ。

- ア 吾妻鏡                      イ 玉葉                      ウ 平家物語                      エ 梁塵秘抄  
オ 十六夜日記

問3 【史料2】の下線部dは、当時、発令された室町幕府による徳政令を批判したものと考えられる。この批判が、【史料1】で述べられたような徳政の本質を前提としているとすると、当時の貴族は徳政をどのようなものと捉えていたと考えられるか。当てはまるものを三つ選べ。

- ア 徳政とは本来、あるべき秩序を取り戻すことであり、そのためには先祖代々朝廷に仕えている家柄の者を任用することが大事である。  
イ 徳政とは本来、あるべき秩序を取り戻すことであり、そのためには一人一人の才能のみをよく見極めて、適材適所に役割を分担させて業務を遂行させるべきである。  
ウ 徳政とは本来、あるべき秩序を取り戻すことであり、ある官職に欠員が生じ、ともに才能がある二人がこの官職を希望した場合、奉公の違いによって人選すべきである。  
エ 徳政とは本来、訴訟を公正かつ迅速に処理することであり、そのためには訴訟が起こされるたびに、すぐに評議にあたる適切な人を決めることが重要である。  
オ 徳政とは本来、訴訟を公正かつ迅速に処理することであり、そのためには評議の担当者は、広御所の顧問を務める人の中から、訴訟の内容に応じて決めることが重要である。  
カ 徳政とは本来、訴訟を公正かつ迅速に処理することであり、そのためには評議は月に三度、あらかじめ決められた日に集中的に行い、臨時には開催しないことが重要である。  
キ 徳政とは本来、訴訟を公正かつ迅速に処理することであり、評議にあたる者の全員一致で決定したことが、権勢ある者によって覆されることことがあってはならない。

問4 下線部eは、この時の徳政令の発令までの経緯を記していると考えられる。これをふまえて記した文章のうち、誤っているものをすべて選べ。

- ア 土民たちは、自分たちの要求が聞き入れられなければ、寺社を焼き討ちにすると主張した。  
イ 室町幕府は将軍が無力であったため、管領が一揆勢を処罰するよう下知した。  
ウ 土民たちは、対象を限定しない一律の徳政令の発布を求めている。  
エ 室町幕府の管領は当初、土民を対象とした限定的な徳政令を発布しようとしていた。  
オ 土民たちは、仲間のうちの誰かが後に罰せられることを恐れていた。  
カ 室町幕府の管領は土民の主張を一切受け入れず、土民たちを一齐に処罰した。

問5 下線部fは土倉のことを指していると考えられるが、これについて述べた文章として誤っているものはどれか。一つ選べ。

- ア 徳政一揆において、土倉は一揆勢の主導者となるが多かった。  
イ 土倉は、取引相手から質物として預かった物品を保管する蔵を構えていた。  
ウ 室町幕府は、土倉に賦課する課役を重要な財源としていた。  
エ 裕福で人望もあった土倉は、有徳人と呼ばれることもあった。  
オ 土倉は京都・奈良に多く、これらの都市の自治を担った。

問6 空欄 c には、土地や所領の權益を保証する証文や公文書の審査を主な役務とした機関の名称が入る。この機関の名称を漢字3字で記せ。

Ⅲ 次の文章とそれに関連する史料を読み、問1～9に答えよ。問1～8については、それぞれの解答を選び、マーク解答用紙の番号をマークせよ。問9については、記述解答用紙に記入せよ。

江戸時代、日本列島を統治した武士は主従関係を重視した支配体制をつくりあげ、秩序を維持した。幕府の頂点に立って全国を統治する将軍と地方を統治する大名との間、また、大名とその家臣との間は、それぞれ主従関係で結ばれていた。そして、武士は主君に果たす軍役に見合う領知を配分され、特定の土地と人民を支配した。その点で、この時代は戦国期以前の中世と連続する時代であったといえる。

一方、幕藩体制とよばれる支配体制は、しばらく安定した状態が続いたように見えるが、18世紀以降になると、商品経済が村社会のすみずみまで浸透するとともに揺らいでいく。実際、19世紀半ばに幕藩体制は崩壊するが、その起点は **A** 期であったとする考え方がある。そのとき、幕府政治の中心にいたのが田沼意次であったので、この時代は田沼時代ともいわれる。単に田沼が政治の中心にいたというだけではなく、さまざまな状況の変化に応じて、それまでとは異なる姿勢で政策が推進されたという意味が、この呼称には込められている。

田沼意次の政治は、商品経済の利益を利用して財政を補おうとするものであり、以後の時代の秩序を支える商業活動の活発化を後押しすることになった。商品経済の展開は一部に利益をもたらしたが、格差社会を生み出した。史料1は、1787年、そうした人々の不満によって引き起こされた事件を伝えている。意次は、この時代の規律の緩みなども含めて、当時起こっていたあらゆる問題の責任を一身に背負わされ、失脚した。史料2は、彼が老中辞職を強いられた後に、大元帥明王だいげんみょうおう（炎を背負う怒りの形相の仏）に対して上奏した願文の一部である。自分に降りかかった不幸を嘆きつつ、仏の力に頼って悪魔を追い払うことを願った。

18世紀中期以降、それまで支配領域内で完結していた百姓一揆は、支配領域を越えて広域化するとともに、商品経済の浸透に関わって起こることも多くなる。非合法の百姓一揆のほか、合法運動も類似の傾向にあった。加えて、商品経済の展開のなかで、さまざまな文化活動が展開し、民衆世界が広がった。

また、政治上の役職についても江戸時代を通じて、能力に応じて登用される仕組みが広がったことも知られており、官僚制の時代が到来したとする考え方もある。主従関係を重視する、人による支配がなくなったのではないが、制度を重視する、法による支配も進んだ。そうした、明治時代以降の近代への連続性を重視すれば、江戸時代は **B** であるとする見方もできる。

それでもなお、武士の主従関係は幕藩体制が存続する限り消滅しなかった。その点で、江戸時代を中世以来の連続性で理解することは完全な誤りとはいえない。近世という時代区分に当てはめて考えられている江戸時代とは、どのような時代であったのか。この間に答えるためには、以上のような複眼的な視点が必要である。

〈史料1〉

米価にわかに高値になり、(中略) かるきものどもくらしかねて、御府内(注1)の豪富の町家をうちつぶし乱暴をせしなり、(中略) ここによって天下の御政に欠事もはべるによって、かくはなりけらしと、心ある人みな眉をひそめあえり、それより参勤して御札申し上げしが、(中略) 老中に上座仰せ付けられ、侍従に任じられ、かくべつ御懇の御むねを蒙りぬ、このとき御艱難の御時節にて、人の臣たるもの、心力を尽くすべき期なりければ、いまさら辞し申すべきも、臣節をうしないたるやというべきと思惟しければ、まず御うけを申し上げぬ

(注1) 御府内：江戸。

〈史料2〉

有徳院様(注2)に拝謁し奉りし以来、惇信院様(注3)・俊明院様(注4)につかえ奉り、莫大の御高恩を蒙り、剩え老職(注5)に補せられ、大祿を下し賜り、御慈恵月々厚く年々重し、その高きこと嶽のごとく、その深きこと海のごとし、(中略) 在職のとき粉骨碎身、しかして天下の御為をなさんと欲すといえども、(中略) かえって御不為とあい響く条、薄運のいたすところに嘆きてもなお余りあり

(注2) 有徳院：8代將軍徳川吉宗。 (注3) 惇信院：9代將軍徳川家重。 (注4) 俊明院：10代將軍徳川家治。 (注5) 老職：老中。



問9 田沼意次は江戸時代の秩序の原則に反した政治家であったか、それとも従順な政治家であったか。その答えはどちらもあり得る。本文と史料2をもとに、それぞれ50字以内（句読点を含む）でその理由を説明しなさい。前者はア、後者はイ、の解答欄に解答しなさい。

Ⅳ 近代日本の民衆運動に関連する次の史料1～4を読み、問1～7に答えよ。問1については、記述解答用紙に記入せよ。問2～7については、それぞれの解答を選び、マーク解答用紙の番号をマークせよ。

【史料1】

暴徒は多く後鉢巻<sup>たすき</sup>をなし、号令者は自由<sup>a</sup>党員、博徒、モグリ<sup>だいがんにん</sup>代言人にて、<sup>b</sup>地租減額、徴兵令改正、学校廃止の請願を口実とし、負債の義務を免がれんが為に商家に乱入して証書類を焼き金穀を奪ふを事とし（中略）暴徒は昨日の紙上に記載せる如く、本月一日に秩父郡の風布<sup>ふうつぷ</sup>（注1）より起こりて同郡の大宮郷の郡役所、裁判所、警察署を焼き（以下略）

（注1）風布：村の名前。

【史料2】

神戸市にては先日来諸所に「米価暴騰を呪ふ」の貼紙を為せるものあり、其筋にては警戒怠らざりしが（中略）午後七時頃には既に喊声<sup>かんせい</sup>を挙げ、殺気は刻々に加はり来り、ヨイシヨイシヨと東を指して出動し、途中数隊に分れて各方面に向ひ、米屋を脅かし、其主力数千名は神戸市東川崎町一丁目の **A** に押寄せ、群衆は刻々に増加し（以下略）

【史料3】

是ヨリ先キ日比谷公園国民大会ノ解散セラルルヤ、同処ヲ退キタル群衆ハ、前記ノ如ク新富座ニ来レルモノノ外ハ管内日吉町 **B** 社ニ向ヒタルモノノ如ク（中略）約三四千人ノ人数 **B** 社前ニ押シ寄せ来リ、鯨波<sup>けいは</sup>（注2）ヲ揚ゲ、瓦石ヲ投ジ、中ニハ仕込杖ヲ携ヘ居リ之レヲ抜き放ツテ打振りタルモノアリ。

（注2）鯨波：多くの人がいっせいにあげる声。

【史料4】

桂内閣非立憲の声、憲政擁護の叫びは四方より雲の湧くが如く、天下の志士血熱し<sup>あが</sup>氣昂り殺気天地に充つ。政友国民を結束せる民党の士、九日両国国技館に会して院外者大会を開く。

問1 空欄 **A** には、政府による台湾銀行救済の緊急勅令案のきっかけになった商社の名が入る。空欄 **A** にあてはまる語を漢字で答えよ。

問2 下線部 a に関連した以下の文章のうち、正しいものはどれか。一つ選べ。

- ア 自由党は、国会期成同盟大会での決議の結果、結党した。
- イ 自由党は、「日本国憲按」という憲法私案を発表した。
- ウ 第1回衆議院議員総選挙の結果、立憲自由党は第2党となった。
- エ 初期議会における民党の連合は、大同団結運動とよばれる。
- オ 第2次松方正義内閣では、板垣退助が外務大臣として入閣した。

問3 下線部 b に関連した以下の文章のうち、誤っているものはどれか。一つ選べ。

- ア 徴兵令は国民皆兵の考え方にたっていたが、制定当初はさまざまな免役規定があった。
- イ 学制は地方の状況を考慮しない画一的制度として批判されたため、かわって地方の自主性を認める学校令が公布された。
- ウ 安定した税収の確保のため、地租改正によって課税の基準が収穫高から地価に変更された。
- エ 地租改正の進め方に反対する一揆が各地でおこると、政府は地租を地価の3%から2.5%に引き下げた。
- オ 学制・徴兵制の実施や地租改正の着手は、西郷隆盛らを中心とする留守政府によって行われた。

問4 【史料1】で記されたできごとに関連して述べた①～③の文章について、正誤の正しい組み合わせはどれか。一つ選べ。

- ① このできごとの前に、群馬では県令三島通庸が道路工事を強行しようとして農民たちの反発をうけた。
- ② このできごとでは、負債に苦しむ農民が困民党と称して蜂起し、鎮圧のために軍隊が出動した。
- ③ このできごとのあと旧自由党左派による大阪事件がおり、河野広中らが逮捕された。

ア ①-正 ②-正 ③-正

イ ①-正 ②-誤 ③-誤

ウ ①-正 ②-誤 ③-正

エ ①-誤 ②-正 ③-正

オ ①-誤 ②-正 ③-誤

カ ①-誤 ②-誤 ③-誤

問5 空欄 **B** には、日清戦争を機に平民主義から国権主義に転じた人物によって創刊された新聞名が入る。空欄

**B** に入る語句はどれか。一つ選べ。

ア 国民新聞

イ 時事新報

ウ 朝野新聞

エ 東洋自由新聞

オ 報知新聞

問6 【史料4】で述べられているできごとに関して記した以下の文章のうち、正しいものはどれか。一つ選べ。

ア このときの桂内閣は、西園寺公望内閣がシーメンス事件のため総辞職したあとに発足した。

イ 就任前は宮内大臣だった桂太郎が首相になったことが、宮中と府中の別を乱すと批判された。

ウ 桂内閣を非立憲的だとして批判した政党は、あわせて護憲三派とよばれる。

エ 首相の桂太郎は政権批判に対抗するため新政党の設立をめざし、政友本党の設立につながった。

オ 民衆が議会を包囲して政権に圧力をかけたこともあり、内閣は在職50日余りでの退陣に追い込まれた。

問7 史料2～4で述べられているできごとを古いほうから年代順に並べると、正しいものはどれか。一つ選べ。

ア 史料2→史料3→史料4

イ 史料2→史料4→史料3

ウ 史料3→史料2→史料4

エ 史料3→史料4→史料2

オ 史料4→史料2→史料3

カ 史料4→史料3→史料2

V 次の文章とそれに関する史料を読み、問1～10に答えよ。問1，2については、記述解答用紙に記入せよ。問3～10については、それぞれの解答を選び、マーク解答用紙の番号をマークせよ。

1895年、日清戦争の講和条約として結ばれた下関条約によって、日本は遼東半島・台湾・澎湖諸島を獲得した。このうち遼東半島は、三国干渉によって清に返還された。同年、日本は台湾総督府を設置し台湾の植民地統治を開始した。続く日露戦争の講和条約であるポーツマス条約によって、ロシアは韓国に対する日本の指導・監督権を認めた。またポーツマス条約では、遼東半島南部の旅順・大連の租借権、北緯50度以南の **A** の領有権を日本に譲ることとされた。ロシアの承認をうけて、日本は第2次日韓協約、第3次日韓協約を経て、1910年韓国併合条約によって韓国を植民地化した。

第一次世界大戦後、日本はヴェルサイユ条約によって新たに勢力範囲を広げた。他方、国際社会では民族自決の考え方が広がり、各地で独立運動や反帝国主義運動が活発化した。

また、日本の帝国主義化に反対する知識人も現れた。たとえば、無名の人びとがつくった生活用品に美しさを見いだそうとした **B** は、1922年に発表した『朝鮮とその芸術』で「軍国主義を早く放棄しよう」と述べたり、朝鮮民族美術館の設立に尽力した。また **C** は1921年に「大日本主義の幻想」と題した論説を発表し、【史料】にあるように日本の帝国主義に対して批判的な論陣を張った。

日本の帝国主義的拡大は、アジア・太平洋戦争の敗戦によって終わりを迎え、サンフランシスコ平和条約によって日本の領域は制限が加えられた。その後、日本の植民地・占領地から脱した国々と国交を正常化することが日本の外交課題となっていった。たとえば、1965年に韓国とは日韓基本条約を結び、国交を樹立した。

### 【史料】

事実に於ては、如何なる国と雖も、支那人(注1)から支那を、露国人からシベリヤを、奪ふことは、断じて出来ない。若し朝鮮、台湾を日本が棄つるとすれば、日本に代つて、此等の国を、朝鮮人から、若しくは台湾人から奪い得る国は、決して無い。日本に武力があつたればこそ、支那は列強の分割を免れ、極東は平和を維持したのであると人は云う。過去に於ては、或は左様の関係もあつたか知れぬ。併し今は却つて之に反する。日本に武力あり、極東を我物顔に振舞い、支那に対して野心を包蔵するらしく見ゆるので、列強も負けてはいられずと、頻りに支那乃至極東を窺うのである。(中略)

思うに今後は、如何なる国と雖ども、新たに異民族又は異国民を併合し支配するが如きことは、到底出来ない相談なるは勿論、過去に於て併合したのも、漸次之を解放し、独立又は自治を与ふる外ないことになるであろう。(中略)

我国は、孰れにしても先づ其資本を豊富にすることが急務である。資本は牡丹餅で、土地は重箱だ。入れる牡丹餅が無くて、重箱だけを集むるは愚であろう(中略)而して其資本を豊富にするの道は、唯だ平和主義に依り、国民の全力を学問技術の研究と産業の進歩とに注ぐにある。兵營の代りに学校を建て、軍艦の代りに工場を設くるにある。陸海軍経費約八億円、仮りに其半分を年々平和的事業に投ずるとせよ。日本の産業は、幾年ならずして、全く其面目を一変するであろう。

(注1) 支那人：当時の日本で用いられた中国人の名称。

問1 空欄 **A** に入る語はなにか。漢字2字で記せ。

問2 空欄 **B** に入る人物の名を漢字で記せ。



問8 下線部 d に関連した以下の①～③の文章について、正誤の正しい組み合わせはどれか。一つ選べ。

- ① ヴェルサイユ条約により日本の委任統治領となった赤道以北の旧ドイツ領南洋諸島には、カロリン諸島やマーシャル諸島が含まれた。
- ② 朝鮮の独立を求める三・一独立運動に対し、朝鮮総督府は軍隊や警察を動員して運動を弾圧した。
- ③ 山東省の旧ドイツ権益を日本が継承したことに対し抗議デモがおこったことなどから、中国はヴェルサイユ条約の調印を拒否した。

ア ①-正 ②-正 ③-正

イ ①-正 ②-誤 ③-誤

ウ ①-正 ②-誤 ③-正

エ ①-誤 ②-正 ③-正

オ ①-誤 ②-正 ③-誤

カ ①-誤 ②-誤 ③-誤

問9 下線部 e に関連した以下の文章のうち、正しいものはどれか。一つ選べ。

- ア アジア・太平洋戦争中に日本軍に占領されたインドネシアは、日本に対する賠償請求権を放棄した。
- イ 南西諸島や小笠原諸島は、国際連合から信託をうけたアメリカによる信託統治領となった。
- ウ サンフランシスコ平和条約には西側諸国のほか、アジアではインド・ビルマも調印に加わった。
- エ サンフランシスコ平和条約の調印と同じ日に、日米安全保障条約と日米行政協定が調印された。
- オ 台湾とのあいだで結ばれた日華平和条約は、日中共同声明によって失効した。

問10 下線部 f と同じ1960年代の事項はどれか。一つ選べ。

ア アジア＝アフリカ会議（バンドン会議）が開催された。

イ 日本がOECDに加盟した。

ウ 沖縄返還協定が調印された。

エ 日ソ共同宣言が発表された。

オ 第五福竜丸事件がおこった。

[以下余白]

